

月刊 KatsuMagazine

カツマガジン

2011年 4月号



創刊にあたって

このPDFマガジンは、私が日々、ブログやFacebookなどに、いろいろと書いて、書いて、書いているコンテンツをテーマ別にまとめて、編集、加筆をしたものです。

私は『書くこと』こそが『考えること』である」といつも思っています。なぜなら、書き言葉、というのは「あいまいさ」が許されないためです。話し言葉であれば、多少あいまいな表現でもいいですし、まして、自分の中の思想だけでしたら、ぼんやりとした考えでも、何となくまとまっている気になってしまいます。

ところが、書き言葉というのはとても残酷で、その人が本当にその内容がわかっているのか、概念をしっかりとつかんでいるのか、そして、相手に説明をするときに、それを再現できるような言葉を用いているのか、一目瞭然なのです。

同じ文章を読み上げるのでも、訓練されたプロのアナウンサーが読むのと、素人が読むのでは聞きやすさがまったく違うように、同じ内容のことを説明するのでも、書き慣れている人と、そうでない人が書くことは、お腹にストンと落ちる感じが異なるわけです。

そして、さらに難しいのが、「言葉」はまず、人によって知っている言葉の数や、想像できる言葉の数が違うということがあります。私はついつい、カタカナ用語を使ってしまい、それで「わかりにくい」と言われて反省するのですが、文章の中に繰り返し、読み手にとって知

らない言葉、苦労しないと理解できない言葉が入ると、そこにひっかかって、読む気が失せてしまうわけです。

だからといって、わかりやすくしすぎると、今度は言おうとしている内容からかえって遠ざかってしまいます。そのバランスをいかに取るかが、実は概念と言言葉を結びつける作業であり、自分の中であいまいだった「考え」を「書き言葉」という、だれもが共有できる形で提供することだと思っています。

ブログはテーマも特に定められていないし、特定のスポンサーがいるわけでもないので、のびのびと、自分の考えをまとめることができます。さらに、書き言葉のいいところは、それを組み合わせて編集をすると、また違った読みやすさが生じて、新しい気づきを別の形で受けとってもらえることです。

ぜひ、この新しいマガジンのここがいいとか、こういうところを改善した方がいい、ここがもっと知りたいなど、みなさんからのフィードバックをいただきたいと思います。そして、その意見を参考にしながら、新しい試みとして定着させて、みなさんに喜んでいただけるよう、続けていきたいと思っています。

どうか新しいPDFマガジン、ご愛顧ください。

 勝間 和代

特集「2011年3月11日」

この日、未曾有の大災害が日本に降りかかってきました。多くの尊い命を失い、心を痛めながら日々を過ごしている方も大勢います。いまこそ、日本中が目的を1つにして力を合わせる時。どうしたら良いか、一緒に考えていきましょう。

※本特集は、勝間和代が2011年3月21日までに執筆したブログ記事をもとに編集しました。

CONTENTS

挨拶「創刊にあたって」	1
特集「2011年3月11日」	2
① できる人が、できることを、できるかぎり(3D運動のすすめ)	2
② 支援のあり方について、考える	5
③ 節電について、考える	7
④ 勝間の気づき	10
編集後記	11
勝間塾レポート(スタートアップセミナー:3月30日実施)	12

テーマ1 できる人が、できることを、できる限り(3D運動のすすめ)

日本中が恐怖と悲しみに震えた3月11日。テレビなどで報道される状況は目を覆わんばかりの惨状でした。しかし、私たちはこのまま手をこまねているわけにはいきません。日本が一步一步前へ踏み出すために、何をすればよいのかを考えてみました。

地震災害復興にあたって～

自分ができることをできる限りしよう、正確な情報を集めよう、非難を止めよう

March 12, 2011 <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/03/post-c680.html>

3月11日、日本にとって、すべてのことが変わってしまうくらいの大災害が起きています。

私も、明日から緊急支援NGOのJENさんといっしょに現地に入り、情報収集・整理の活動に参加予定です。これは、自分ができるとはとにかく“すべて行う”と考えたからです。野宿の準備をして向かってください、とのことでした。

昨晩は、親戚やうちの社員を泊めること、そして、なるべくTwitterやFacebookなどで情報を共有することしかできませんでした。とにかく少しずつでもいいから、“できることを、できる限り”やっていきたいと思っています。

この状況において私たちができることは何か、3つにまとめました。

できること1)とにかく、各自ができることを、できる限りすること

例えば、東日本に発電量不足による停電のリスクが大きくなっています。まずは節電を心がけて、不要

な電気を消し、暖房を止め、待機電力を使っている機器のコンセントを抜くなどです。

私はたまたま仕事の調整が可能だったので現地にいくことができますが、気持ちはそう思っても、実際には動くのが大変な人たちもたくさんいると思います。その場合には、専門家の方々に活動資金をお預けください。現地に必要なものを緊急調査して、手配し自立支援(※)を行っていきます。

できること2) 正確な情報を集めること・デマを信じないこと

大事なことは正確な情報を集めること。そして、デマを信じないことです。さまざまな情報が流れる中で、必要な情報、ささいな情報、明らかに不安をあおるようなデマなど、区分をする必要があります。

情報には出所があるのか、根拠があるのか、科学的な証拠があるのか、事例があるのか。それを話している人に信頼性があるのかなど、多角的に判断を行うことをお勧めします。

できること3) 他者の非難をやめよう

このような状況になると、どうしても不安が高まるため、「〇〇が悪い」とか、「××の対応が今ひとつ」といったような、他人の非難をして自分の責任ではないと考え、気持ちを落ち着かせようとしてしまいます。しかし、そんなことをしても、いまはまったく助けになりません。それよりは、どうやったら、一人でも多くの被災者の方の力に「自分が」どうしたらなれるのか、考え抜く必要があると思います。

他人を非難することをやめ、実際の支援に当たっている人をどうやって応援できるか、あるいは自分自身が応援できないか、切り替える必要があると思います。

何かことを起こそうとすると、必ず非難する人たちはいます。しかし、私たちが声を聞かなければいけないのは「非難をする人」ではなく、「支援を求めている人」です。

人のために、できることを、できる限り、していきましょう。

※編集部注：

勝間は当初、JEN（特定非営利活動法人 ジェン）の被災地支援に同行する予定でいましたが、リスクの大きさを勘案して、東京に待機することになりました。

「3D運動」のすすめ～

「できる人が、できることを、できる限り」を合い言葉にしませんか？

March 17, 2011 <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/03/post-1d95.html>

地震以来、できる限りの時間、情報のハブになることを心がけています。なぜなら、私はそれが一番の得意技だし、それしかできないからです。

それぞれ、人によって得意技が違います。だからこそ、緊急時こそ、自分が意識しなくても地力で出来ることしか、自然に力を発揮できないと考えます。

私がTwitterでいろいろと情報をretweetしているのも、さまざまなTwitterやMLその他から、必要と思われる情報を抽出し、まとめ、必要と思われる人に伝え続ける。それしかできないからです。

それでもなんとか、現地のニーズを集め、NPOやメディア・政治家に伝え、製薬会社や飲料メーカーにつなぎ、そして、時間のある限り書く原稿を地震復興に合わせたテーマにして、新聞・雑誌でも訴える。それしかできていません。自分の無力さに、たまに泣きそうになります。

それでも、それでも、
「できる人が、できることを、できる限り」
これしかできないのです。

そして、この
「できる人が、できることを、できる限り」

このチェーンが、つながって、大きくなって、問題解決につながるのだと思います。

3つの「できる」なので、「3D運動」と名称をつけさせていただきますか？

Twitterを通じて私の元に届いたマスメディアに対する要望の件も、個人的にも信頼できる各局の方々に伝えました。それに応じて、メディア内部の方たちが本当に動いてくださいました。Twitterでも、また、テレビ局の方々も、自画自賛かもしれませんが「確かに変わり始めた」と言ってくれています。

そして、各方面に提案したことの中で、いくつかは確実に動き始めています。
とにかく、

「できる人が、できることを、できる限り」

これで、みんなで進んでいきませんか？ このコトバは、私がさまざまな人とメールを交換する中で自然に生まれてきたものです。

みなさんと、いっしょに行動していきたいです。

今日は冷え込むので、ますます電力が逼迫するそうです。節電、そして、買い占めはしない。できる人が、できることを、できる限りの3D運動で。

これからも、どうか、よろしくお願いします。



「レジリエンス」を高めよう～「3D運動」の根底にある考え方

March 18, 2011 <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/03/3d-c4aa.html>

私は、「できる人が、できることを、できる限り」という「3D運動」を推奨させていただきました。

「3D運動」とは、「できる人が、できることを、できる限り」を合い言葉にして、行動していこうというもの。

その考え方の背景にあるのは、
「レジリエンス (resilience)」ということばです。

日本語に訳すと
「困難な状況にもかかわらず、うまく適応できる力」となります。

震災から1週間たった今日、ぜひ、1人でも多くの方が、レジリエンスの概念を知っていただきたいと思います。以下に、3月18日配信のメールマガジン「勝間和代オフィシャルメールマガジン」の中でお送りした内容を、ブログにも再掲載します。

―― ここから ――

おはようございます。勝間和代です。

大地震でお亡くなりになられた方々に、心より哀悼の意を表します。

また、被災された方、そのご家族・関係者のみなさまには、心よりお見舞い申し上げます。

3月11日に起こった大地震で、日本は一変してしまいました。第二次世界大戦以後、最大の災害です。日々、衝撃的なニュースや映像が流れているため、毎日を不安に思っている方も多いと思います。

このような時に、ぜひ、みんなで共有したいキーワードが**「レジリエンス (resilience)」**です。

日本語に訳すと
「困難な状況にもかかわらず、うまく適応できる力」となります。

レジリエンスが強い人は、次の3つの特徴を持っています。

1 肯定的な未来志向性

未来に対して肯定的な期待を常にもっていること

2 感情の調整

感情のコントロールを行えること

3 興味・関心の多様性

さまざまな分野に興味・関心をもっていること

レジリエンスは、これまで特に災害の経験が多かった人が必ずしも強くなるわけではありません。

困難な状況からの回復には、心の持ちようのほうが、これまでの経験よりも効果があることがわかっています。

そして、

●安定した家庭環境や親子関係があること

●セルフ・エスティーム（自尊心）や共感性が育っていること

●コンピテンス、スキル、ユーモア、コミュニケーション能力があること

などにより、レジリエンスの特徴が高まることがわかっています。

すなわち、過度に困難な状況を心配するよりは、

「どうやったら自分が持っている、あらゆるものを駆使して、困っている他人に貢献できるか」

「そして、そのことを通じて、自分自身の自己肯定感を高めることができるのか」

を考え、行動し続けていくことこそが、人々の回復を助け、日本の回復をも助けるのです。

どうか、自分が何に貢献できるかを考えてください。

正しい情報を集め、人を非難することなく、できる限りの力を仲間のために、尽くしていきましょう。

―― ここまで ――

「勝間和代のオフィシャルメールマガジン」はこちらからご登録ください。毎週金曜日に配信しています。
http://www.katsumaweb.com/modules/contents/index.php?content_id=14

テーマ2 支援のあり方について、考える

震災などが起きた場合の緊急支援の問題点や難しさ。そして、義援金の寄付先はどんな団体が望ましいのか。私が信頼する緊急支援NGOのJENの支援活動を通して、支援のあり方について考えてみました。

緊急支援が難しい3つの理由～緊急支援NGOのJENとの経験を通して

March 13, 2011 <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/03/3ngojen-fe14.html>

2008年以来、Chabo!という印税寄付金プログラムを通じて、緊急支援を専門とする緊急支援NGOのJENさんと深くつき合ってきました。

今回の地震に対して、JENさんもすぐに行動を起こして、現地への調査員の派遣を決めていました。

私も調査員の1人として、現地にJENさんに同行すべく準備を進めていましたが、その時に起きたのが、3/12の福島原発の水素爆発事故でした。結局、様子がわかるまで1日出発を延期、拠点を構える予定であった仙台まで進まず、まずは茨城まで、少人数で車2台で動いて、ニーズ調査をすることになりました。私は東京に残ることになりました。

よく、なぜプロの支援が現地に入る必要があるか、ということ聞かれますが、以下の3点にまとめられると思います。

【緊急支援が難しい理由3つ】

1 現場のニーズに合わない物資支援ばかり集中しやすい。

まず1点目ですが、〇〇が足りない、という報道が流れると、どーっとな全国からその物資が流れ込みます。しかし、物流インフラが麻痺しているの、それが必要な人に届くとは限りません。また、その物資を仕分けする人も足りませんし、必ずしも必要としている物資でないこともあります。

さらに、毛布、食糧、衣類といった、手に入りやすいものは多くなるのですが、ジェネレーターや医療器具など企業の協力が必要なものには、必ず仲介者が必要になります。

そして、もっと深刻なことは、物資以外のケアとして、本当に何が必要かということは、実際に現地の人ときめの細やかなコミュニケーションをもたないとわからない、ということなのです。多くの場合、必要なのは問題解決で物資ではありません。そのためには、仲間に入って腹を割った話ができないといけません。

2 目立つ場所にばかり支援が向かい、限界集落や避難場所がないところに支援が向かいにくい。

JENさんは、報道でもっとも目立つ避難所よりは、避難所が設けられていない地域、報道から外れている地域を重視します。どうしても、行政の支援も、自衛隊の支援も、メディアの報道も、「わかりやすい場所」に集中しがちなのですが、実際には、目に入らなかった地域こそ、一番困っています。中越地震の時もJENさんが活動したのは、小千谷市ではなく十日町市でした。

今回も、実際に現地に行ってヒアリングを重ねながら、困っているけれども、支援のめどが立っていないところまで前進をしながら、インフラや物資の手配をする予定です。

私は今回、現地に行かないことになりましたが、仙台在住のボランティア学生さんなどを通じた情報収集や、支援内容が決まった後の企業との交渉や資材の調達などに東京から当たる予定です。

3 期待のコントロールが難しい。ヒアリングだけして支援ができなかったときの落胆が大きい。

例えば、Twitterなどを通じて、「今必要なものはなんですか」と呼びかけて、情報を集めることはできます。しかし、いたずらに期待値だけを高めても、結局はそのソリューションを提供できない場合、市民と団体の間に不信感が高まってしまいます。

特に物資の場合、入手もその流通も大変難しく、物資からみたソリューションではなく、問題解決のためのより大胆なソリューションが必要なのです。

現在、携帯の電源がないということが問題になっていますが、本当に携帯充電器を配ることがいいのか、それとも、ジェネレーターかなにかで大きく発電をして、それを充電池に入れて配った方がいいのかなど、複数の解決策を比べる必要や、それに協力してくれる企業や人を集める必要があります。

長々と書きましたが、とにかく、みなさんからいただいた寄付を無駄にすることなく、最大限の活用をということを考えると、現地でのきめ細やかなコミュニケーションとオペレーションがないと、ほんとうに、ほんとうに難しいのです。

今回現地入りする第一陣から新しい情報が入り次第、また、必要な行動を起こしていきたいと思います。JENさんは確実に必要とされる支援を最小限のコス

トで届けること、それをモットーとしています。継続して応援していきます。

これからも、さまざまな情報発信をJENさんと共同で、あるいは私単独で行っていきたいと思いますので、ぜひ、ご賛同いただける方は協力をお願いします。



特定非営利活動法人 ジェン

なぜ私が信頼できる寄付先として、JENを推奨するのか

March 15, 2011 <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/03/jen-gienkin-4a7.html>

これまで緊急支援NGOであるJENさんを義援金の寄付先に推奨してきました。理由は、以下の二つです。

1 プロを介さない物資支援は大変難しい。

ニーズが混乱し、物流が麻痺しています。だからこそ、プロによる支援が必要なのです。

2 赤十字その他、メジャーのところには支援が集まりやすいが現地に届くまで時間がかかる。

大きなところは、まず集計が始まって、本部費の控

除があって、そして、配分まで、たいへん時間がかかります。それよりは、JENさんのように、もう現地に行っているところに送った方が、小回りも利くし対応も早いのです。

もちろん、JENさんだけがNGOではありませんので、いろいろな選択肢があると思いますが、一つの選択肢として、ご考慮いただければ幸いです。

JENさんの信頼性については、何度もいっしょに現地を訪問した私が、自分の全信頼をもって担保します。

関連情報

- JEN（特定非営利活動法人 ジェン）<http://www.jen-npo.org/>
- JENのTwitter（支援に必要な情報を随時、つぶやいています）http://twitter.com/NGO_JEN#
- JENが実施している寄付プログラムについての情報はこちらをご覧ください。
http://www.jen-npo.org/contribute/form01_1.php

緊急支援NGOのJEN、現地の炊き出しが始まりました

March 16, 2011 <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/03/ngojen-gienkin-.html>

これまで、Chabo!その他でずっとお付き合いさせていただいて、支援をしてきたJENさんの支援物資（ポリタンク、女性用衛生用品（生理用品）、野菜、缶詰、米など）を積んだ車が、東京本部事務局（東京都新宿区）から仙台市宮城野区に到着。

JENさんの現地での炊き出しが始まりました。

一人一人のできることは小さなことかもしれませんが、1つのNPOが出来ることも小さなことかもしれません。しかし、何千、何万、何十万、何百万、そして、日

本人、世界の皆が出来ることをやっていくと、それはとてもとても、大きなことになっていきます。

できることをいっしょに、できるかぎり、力を合わせていきましょう。



3月16日、JENは仙台市立高砂中学校で炊き出しを行いました。

関連情報

- 緊急支援：【プレスリリース】 炊き出し決定！（JEN公式ブログ）
<http://jenhp.cocolog-nifty.com/emergency/2011/03/post-b0dc.html>

テーマ3 節電について、考える

電力の供給が追いつかなくなり、関東では「計画停電」が始まりました。「電気があって当たり前」という常識が覆された今、私たちはどういう生活をすべきなのか。計画停電中の東京の夜の街の様子や、“効果ある節電”をするためのポイントについて考えました。

計画停電の東京を外出したときの気づき

March 18, 2011 <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/03/post-eb22.html>

計画停電の東京を、午後5時から10時半くらいまで外出しました。私の歩いた、出かけた範囲だけでもしれませんが、とにかく

節電の心が思った以上に浸透している
ということでした。

まず、表に出てすぐに気づくのが、全体的に街がいつもより暗いことです。その理由は以下の通りでした。

- ・街灯が光量を落としていたり、ついていないものがある
- ・看板系がみんな消灯している
- ・お店が半分くらいしか営業していない
- ・コンビニの看板がほとんど消灯している
- ・家の明かりも半分くらいしかついていない

そして地下鉄に入ると、やはり少し薄暗く、ダイヤは「休日ダイヤ」運行になっていました。薄暗いのは広告の看板と駅名看板がすべて消灯し、駅構内の自販機も休止していたためです。

電車はもちろん、いつもよりかなり混んでいました。人が一番移動する午後5時台、6時台、7時台に土日と同じ本数だったら、それではキャパシティが足りるはずありません。しかも、人が動くその時間帯が一番、電力も逼迫する。難しいです。とりあえず、私が乗った地下鉄は、それでもすし詰めではありませんでした。

そこから、私鉄に乗り換えたときにびっくり。もちろん、時間がどんどん通勤時間帯になってきたことでもあるのですが、まずホームに入ったら、ホーム中、ほぼ一杯の人でした。

たまたま始発駅からまだ3駅目だったので、何とか1本目の電車に乗り込むことができました。それでも、2割くらいの方は次の電車待ちだったのでしょうか。この駅で、この電車はほぼ一杯になってしまったわけですね。

私の目的地はそこから約10駅くらいのところだったのですが、途中、いちばん問題だったのが他の路線との乗換駅でした。

すでにこの電車がいっぱいですから、乗換駅からさらに乗り込もうと思っても、1つのドアに5人くらいがせいぜいです。ところが、乗り換え客が並んでいるのはドアあたり、軽く15人くらい。しかも、ほとんど人が到着しますから、見ていると明らかに処理能力を超えています。

計画停電の顕著な問題点として

通勤・通学に事故が起きるレベルになるほど、人が電車・ホームにあふれかえること

と感じました。

ただ、そんなときでも乗換駅で乗ってくるばかりで、ほとんど人が降りない駅で、かなり真ん中の方にいた若い女性が降りようとしていました。しかし、乗り込んでいる人たちが多くて降りられず、もうすぐドアも閉まろうとしたその時に、同じ車両の乗客が一丸となって、その女性をなんとか押し出して、降ろすために団結していたのがとても印象的でした。





そして、車内の人たちも本当に混んでいるのですが、「いやあ、乗ることができてよかったねえ」とおじさんが話して車内がなごむなど、ぎゅうぎゅう詰めなのですが不思議な連帯感がありました。

私も前に座っているおじさんに、ずいぶんとカバンをぶつけそうになったのですが、嫌な顔ひとつせずじっとされていました。

別の駅では、降りようとしていた親子のうち、小学生の男の子が具合が悪くなってめまいがした時にも、「大丈夫か、大丈夫か」という声と、屈強な男性が2人で男の子を抱えてアシストしてベンチまで運んでいました。

なんか、とても不思議な空間でした。

もっとも、いったいこの雰囲気がいままで続くのか。今は大丈夫でも、これが数週間、数ヶ月、半年と続いたときに、本当にこの雰囲気が保てるのか私にはわかりません。

さまざまな資源が足りない中で、何にどう配分をするのかどこにも正解はなく、試行錯誤の中で行っていくしかないわけです。

しかし、間違いなく通勤時間帯はもう少し電車の本数を増やさないと、安全問題・健康問題になると考えます。

そして皮肉なことに、私が帰りに乗った午後9時、10時台の電車の中はもののみごとにガラガラでした。みんな節電と計画停電対策のため、かなり早い時間に帰宅してしまったからだと思います。お店もあまりやっていませんし。



10時には、私が通ったお店は一部の居酒屋さんやレストランを除いて、パチンコ屋・カフェ・たこ焼き屋・中華料理店・ゲームセンター・お弁当屋、みんな、すでに閉まっていました。

道路はそこには、やはりガラガラ。駅づきの空車のタクシーの列が、隣の駅にまで届いていました。被災地ではあんなに足りないといっているエネルギー。タクシーはガソリンではなくLPガスだとはいえ、大変皮肉なことです。

あと気づいたのは、やはり、ずいぶん自転車が増えました。駅に向かって、駅から、ふだんの数倍の自転車を見たような気がします。駅の自転車置き場も一杯で、係のおじさんが忙しそうに整理をしていました。

電車が混んでいることを除いては、ヨーロッパの街に似ていると感じました。ヨーロッパですと、だいたい午後7時を過ぎるとレストラン以外、ほんとうにどこもかしこも閉まってしまうので、それまでにだいたいの買い物や外出を済ませておかないといけないからです。

また、部屋の中も日本人基準からいうとかなり薄暗く、ホテルはある電気を全部つけても、「エッ？これだけ？」という明るさです。でもみんな、それであたりまえだと思っています。(もちろん、これは目の色素の濃さの違いなのか、ライフスタイルの違いなのかは一概にはいえないと思います)

わたし達は電力をこれまで、自分たちのライフスタイルにあわせて増やす、という方法を採用してきました。しかし、そうではなく、今現在、環境と折り合いがつく電力量の中ではどういう生活をすべきか、そのように逆算をした方法が必要になるのかもしれない。

電力需要の逼迫は予断を許さず、節電の努力を緩めるべきではないと思います。そして、その中で新しいライフスタイル、幸せを探していくのでしょうか。

私が、今回の地震で大きく変わったのは、夜の仕事や外出がほとんどなくなったので、ほぼすべての夕食を子どもたちと食べる毎日だったことです。私は料理は得手ではないので、ふつうの家庭料理のメニューばかりですが、家の料理を家族揃って食べる、そんな当たり前の幸せが生活の礎にあるのかとも思いました。

とにかく、すべてのことを、考えて、考えて、考え直して、そして、新しい生活を切り開く。それが必要だと感じています。

本当に必要なのは「ピーク時」の節電

March 21, 2011 <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/03/post-d9f7.html>

節電に関して、電気の仕組みがずいぶん浸透してきましたが、それでも健康を害しかねない過度な節電や日常活動に支障がある節電もあって、わたし達の生活の質を落としているところがあるので、もう一度、大事なポイントを2つまとめます。

1 供給の仕組みから考えると電気はほとんど貯められないので、節電は「ピーク時」に使わないようにする。極論すると、そのことが一番重要。(現状では、平日の明るい時間から夕食時にかけての、大量の人間が起きて、動いて、食事をしたりしている時間帯)

2 他地域からの振り替えはほとんど出来ないの、東京電力・東北電力以外の地域の節電は「気は心」くらいの効果しかない。

もちろん、不要不急の電気はすべて使わない方がよいです。発電所のダメージから、ベースとしての供給量が下がっていますから、その部分は使っていない部屋の電気を消す、使っていない家電の電源を抜く、必要以上の暖房をつけない、冷蔵庫に物を入れすぎない、電気ポットはなるべくつかわないなどは共通です。

しかし、夜中にお風呂から出た時に寒いのに我慢して自然乾燥して風邪を引くよりは、ドライヤーをかけて健康でいたほうがいいのです。暖房を完全に消すと寒い時には、寝しなに数時間だけかけて、朝の活動時間帯には消しておくということもできます。

逆に、昼食時、夕食時の食事のための電化製品が電気消費量のピークを作るので、ご飯は夜中に炊いておくとか、洗濯やその乾燥も夜中に行う、あるいは

食事の時間そのものをずらしてしまうというのも有効です。

つまり、他の時間にせつせと節電しているのに、夕食時に炊飯器・電子レンジ・電気オーブンなどを一斉に使うようでは、節電の意味が薄れてしまうということなのです。どれだけ、一人一人が“電力消費の最大の山を小さくするか”が重要になります。

携帯やその他の充電の充電は、同じく、なるべく夜中に。とにかく、必要なことは「平準化」です。必要のない節電により健康を害しては元も子もありません。ぜひ、バランスを取ってください。

東電のホームページで、1時間ごとの電力の使用状況グラフ(東京電力のサービスエリア内の電力使用状況)も公開されるようになりました。

みんなで節電について考え、“効果がある節電”を行いましょう。

ー補足1ー

夜中に余った電力は揚水発電、という形で、水の位置エネルギーに貯めることは出来ます。しかし、東京電力全体ですべての揚水発電を稼働しても、100万kwあるかないかくらい。ピーク時コントロールの方が停電対策としては有効です。

ー補足2ー

家庭側だけではなく、企業側の節電も重要で、そのためには、サマータイム、フレックスタイム、休日輪番などいろいろな手段が考えられると思います。この点はまた近いうちに。

関連情報

- 電力の使用状況グラフ(東京電力エリア内) <http://www.tepco.co.jp/forecast/index-j.html>
- 「節電すべきか」という疑問に対する回答(地域別): nori_hara blog http://nori_hara.livedoor.biz/archives/51670820.html
- 続・「節電すべきか」という疑問に対する回答(東北電力、東京電力地域以外): nori_hara blog http://nori_hara.livedoor.biz/archives/51673468.html
- ECCJ 省エネルギーセンター / 家庭の省エネ大事典 <http://www.eccj.or.jp/dict/>
- 節電 - Wikipedia <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AF%80%E9%9B%BB>
- 揚水発電 - Wikipedia <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8F%9A%E6%B0%B4%E7%99%BA%E9%9B%BB>
- サイエンス・メディア・センター 今回の原発事故に関連した情報を、数値に基づいてまとめてあります。 <http://smc-japan.sakura.ne.jp/>

テーマ4 勝間の気づき

地震発生直後から、携帯電話は通信不能の状態に陥りました。また、拡散を目的とした悪質なチェーンメールも出回りました。様々な経験を通して、緊急時における周囲の人への配慮や情報の取捨選択方法など、勝間の気づきをまとめました。

現時点（3/14）で、地震に対して思うことをまとめておきます

March 14, 2011 <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/03/post-5fbc.html>

大地震（東日本大震災）が起きてから3日が経ちました。その時からの、いろいろな学びをまとめておきます。

学び1／情報が入るまでは、事態の深刻さはまだわからない

ちょうど地震発生の時には、三田の「女性と仕事の未来館」で、私は内閣府の仕事で村木厚子さんの挨拶の後に基調講演する予定でした。

村木さんの挨拶の最後の方ではすでに軽く揺れ始めており、私の出番になるといくら係の人に促されても、これは講演どころではないと感じました。なぜなら、揺れ始めてから大きく揺れるまでの時間が長くて、大地震であることが容易に想像できたこと。さらに、ホールのシャンデリアとスポットライトがいまにも落ちそうなくらい、大きく揺れていたからです。

そして、となりの参事官と二人で「危ないから避難しましょう」ということになり、ホールの扉を開けて、「みなさん、逃げましょう」と、会場内のみなさんに避難を促しました。

それから、スタッフとイベントを続けるかどうかという打ち合わせをしている最中に、あまりにも地方の震災の状況がひどいと報道を見聞きして、交通機関の麻痺も考えてイベントを中止しました。余震がおさまるのを待って、それぞれが徒歩で帰ることになりました。

この時点では、実は私は、自分のネイルサロンの予約や夜に同窓会の打ち合わせなどの予定を入れていて、「出席しようかなあ、どうしようかなあ」なんて、のんきなことを考えていたくらいです。

しかし、震災の情報が集まれば集まるほど状況が悪いことがわかり、どちらもすぐにキャンセル。Twitterなどを通じた情報収集を開始。また、「帰宅難民」の受け入れも始めました。

それでも、この時点ではまだ、「節電」の重要性についても漠然としかわかりませんでした。

学び2／ある程度、自分の安全が確保できないと、人のことまで考えが及ばない

地震の直後、娘たちの安全の確認、親族の安全の確認を一通り済ませてから、ようやく、自分としてどんな

社会的責任を果たすべきか気づき始めました。もちろん、当日を含めて、それから1週間の仕事の予定はすべてキャンセルしました。

そして、Chabo!を通じて縁のあるJENさんに連絡をとって、何ができるか考えたり、たまたま47万人のフォロワーという、ちょっとしたメディアになっているTwitterについて、ひっきりなしにRT依頼が来るので、その中で優良な情報を流すように心がけました。

すると、だんだんと自然に誰がTwitterの中でもハブになっているか、という情報が共有され始めて情報がどんどん集まり始めたので、その仕分けと再伝達に従事するのが、自分の役割の1つと考え始めました。

学び3／人のため、と決心をしながらも、さまざまな制約の中でできる努力をしなければならない

役割に気づいたので、JENさんといっしょに現地に行こうと思ったのですが、私のスキルレベル(サバイバルに対する知識など)では、現状の余震その他のリスクに対して脆弱すぎました。JENさんサイドと議論を重ねた結果、JENさんの支援部隊第1陣には参加しないことになりました。

その代わり、東京で新しいタグを作ったりして、引き続き、情報収集に当たっています。そして当たり前ですが、気づいたことは、すべて、自分の利害や関連性との関わりに、とても敏感だということです。

例えば、東電の停電情報が自分とは少し遠い地域情報ですと、圧倒的に、自分の実生活に影響のある方が関心が高くなります。原発の事故も、なぜ気になるかというと、自分に対して降りかかるおそれがあり、リスクが気にかかるわけです。

また、結局、なにか行動を起こすと、必ず、その行動に対して非難をする人がいます。その非難は的を射ている場合もありますが、そうでない場合は、「行動を起こす人に対してそれを止めることで、無意識にある行動を起こせない自分の正当化」という部分が多くあり、対応に疲れます。

それでも、自分のできることはやり続けなければならないのです。

学び4／そして、この災害のあと、日本は見違えるように生まれ変わるという予感を持っています

この震災は本当に不幸なことであったとは思いますが、今回の災害を通じて、日本人が大きく学習し、そして、ある意味、よい方向に生まれ変わるのではないかと思います。

災害復興には、全体の管理と利他の心が不可欠です。全国民が、そのような学習機会を得られることなど、ほとんどありません。

そして、この災害を乗り越えることで、「自分たちも

できるのだ」という自己肯定感が国民に広まる可能性が高いと考えています。

もちろん、現段階ではすべての被災地は予断を許さない状況で、聞けば聞くほど、食糧・インフラ・情報など足りないものだらけです。そして、そういう場面こそ、みなが人のために頑張るのです。

繰り返し繰り返し学習して、よりよい社会を作ること。それが、今回の震災に不幸にして被害を受けてしまった方たちへの、せめてもの応援だと思います。

緊急時にインターネット情報を判断するための5つのポイント～ 情報の真偽を短い時間で、限られた情報源で判断することの難しさについて

March 17, 2011 <http://kazuyomugi.cocolog-nifty.com/private/2011/03/post-94ee.html>

災害情報や復興支援情報について、さまざまなRT依頼が来る中で、極力、自分ができる範囲で確認して、信頼性が高いと判断できるものだけをretweetや拡散してきましたが、今日の午前中において、NPOの日本ユニバーサルデザイン研究機構 日本ユニバ震災対策チームさんの情報について、迷い、さまざまな混乱するようなtweetをしたことを、まずは心からお詫び申し上げます。

繰り返しになりますが、電話でも活動を確認し、かつ、複数の直接の知り合いから「信頼できる」というメールをいただきました。ご迷惑をおかけした先方にも、直接お詫びをお伝えしました。

そして、なぜ自分が迷ってしまったのか、理由を考えましたので、その防止策も踏まえて、下記に5つのポイントをまとめたいと思います。

【緊急時にインターネット情報を判断するための5つのポイント】

1. 受け手側にとって～情報については、必ず出所を確認すること。そして、「2カ所以上」の異なったルートにおける方法で、「正しいという蓋然性がある」と思えない限り判断を保留すること。

2. 送り手側にとって～人に情報を伝える時には、どのような人になぜその情報が価値があるのか、そして自分はどのような判断でそれを送っているのか、出所はどこか、正確性はどこまで期待できるのかを明確にすること。基本的には、インターネット上で

は受け取り手は懐疑心をもってその情報を見ると考え、なるべく正確な記述を行うこと。特に、健康問題や金銭問題の時には注意をすること。

3. 受け手側も、送り手側も、まちがったと思った場合には、速やかにその情報を前提知識やそれまでの行動に囚われることなく訂正し、特に送り手側だった場合には、受けとったと思われる側に極力の配慮をすること。

4. だからといって、間違っただけでリスクばかり気にすると、疑心暗鬼になり動けなくなるので、それぞれの立場において許容リスクを考え、そのリスク内であれば、受信・発信とも自己責任で行うこと。

5. 情報の発信者が善意である限りにおいては、例え間違っただけの情報を受けとった時にも、相手を責めないこと。単純に、今後のその人の情報は「自分の判断材料」に用いるにとどめること。

みな、善意で情報発信・流通をしています。その情報の流れが大河となって、復興・救済につながります。そこでは発生しうるエラーを送受信側とも最小限に抑え、そして、エラーが起きた時には犯人追及ではなく、より正しい情報を流す方向に動くこと。このことを推奨したいと思います。

関連情報

●佐々木俊尚公式サイト <http://pressa.jugem.jp/?eid=213>
「被災地に救援物資を！ いま私たちに求められていること」

編集後記

今回大震災でお亡くなりになられた方々に、心より哀悼の意を表します。また、被災された方、そのご家族・関係者のみなさまには心よりお見舞い申し上げます。勝間和代がブログで発信してきた情報をまとめてお届けする「KatsuMagazine (カツマガジン)」、創刊号のテーマは「東日本大震災」でしたが、いかがだったでしょうか。勝間は、「できる人が、できることを、できる限り」という3D運動を提案しています。編集部一同、みなさんと一緒に、「今、できることは何か？」を考えていきたいと思っています。「KatsuMagazine (カツマガジン)」は月1回、発行していきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

発行元／株式会社 監査と分析
発行日／2011年4月8日

2011年3月30日(水) 19:10～20:40、東京都千代田区の「ベルサール神田」で、「勝間塾スタートアップセミナー」が開催されました。当日は、470名の会場がほぼ満員になるほどの盛況で、加えて遠隔地の方 約180名には、生放送のUstreamで一緒に臨場感を味わっていただきました。当日の内容を、ダイジェストでお届けします。

勝間塾の志は、自分で考え、人に貢献できる人になること。そして、その先にあるのは…

勝間塾の「志」は、『自分で考える力を養い、1人でも多くの他者に貢献できる人になろう』です。

この塾を通して、1人でも多くの方に、「自分の力で考えて、学ぶ楽しみ」「人に心から喜んでもらえるサービスを提供し、その結果として感謝を得る楽しみ」を知っていただきたいと考えています。

では、「自分で考える力」とは、具体的にどういう力なのでしょう。1つは、「どれだけ考えるための材料を集められるか」、もう1つは「どれだけ信頼できる仲間を集められるか」、この2つだと思います。

「どれだけ考えるための材料を集められるか」、すなわち「知っているということが、いかに大事か」ということの一例として、今回の災害時の電力に関する混乱が挙げられます。今回の混乱の根本的な原因は、「送電線が独占状態にあった」ということにあります。電話に関しては、NTTが民営化した後、通信手段が分散されたので代替手段がありましたが、電力に関しては一系統に集約されたままだったのです。ですから、原発事故が起こったとき、首都圏の電力が一斉に壊滅状態に陥ってしまったのです。

リスク回避を考えると、当然系統を分散させておくべきで、これは人事・組織論を学んでいけばわかることな

のですが、それを知らないと、「一系統になっているのは、おかしいんじゃないか」と気づくことすらできません。

「知恵は力」です。ですから、勝間塾では、良質な情報の集め方・見抜き方、論理的な物事の考え方などを、みなさんと一緒に学んでいきたいと考えています。

次に、「どれだけ信頼できる仲間を集められるか」、すなわち「良質なコミュニティに属することが、いかに重要か」の一例として、「ムギ畑」での学びが挙げられます。私がなぜ、子どもが生まれてから大学院に行ったかという、「ムギ畑」の仲間、子連れで大学院に行っている女性が、すでに何人もいたからです。また、転職に関しても、子育てをしながら、転職によってキャリアアップしていく女性が周りにたくさんいたので、「子どもがいるから、転職なんて無理」とは、全く思いませんでした。

このように、目の前に「できている人」がいて、自然と「自分もできるかもしれない」というイメージを持つことができます。これは、自分ひとりの力ではできないことです。ですから、勝間塾のネットコミュニティや、月例会のようなFace to Faceの場を通じて、お互いが刺激し合い、高め合うことができるような仲間づくりをしていってほしいと思います。

みなさんが同じ志を持つ仲間との輪をどんどん広げていて、5年後10年後の「なりたい自分」をイメージしながら学び続けていけば、きっと私たちの社会は、よりよい方向に変わっていくと考えています。

ついに始動！ 勝間和代と “学び”を共有する学舎 勝間塾

次の月例会は
4月20日!

勝間塾 第1回 月例会

テーマは **自己分析**

日時：2011年 4月20日(水) 19:00～20:40

会場：直接お知らせします



勝間塾へのお申し込みを希望される方は、
こちらの詳細ページをご覧ください。
<http://www.katsumaweb.com/juku.htm>

次回は、これまで千人単位でストレングスファインダー分析を行い、コーチをしてきた、森川里美さんをゲストにお招きします。森川さんのお話、目から鱗が落ちること、保証します！